

1 SDGs体験型地域プログラムの第十次認定について

認定に当たっての考え方

- ① プレイヤー自身が発信することも重要視しているため、**意欲があるものを幅広く認定。**
 - 意欲が有る限り、県が伴走型で支援を行うことが基本姿勢。
 - 認定基準に未達の項目は、原則、磨き上げで対応。足りていない基準として、認定通知で明記。
- ② 支援の内容が定まらないもののみ、**認定を見送る。**
- ③ プログラムの継続や県と協力した取組が困難になった場合には、**認定を取消す可能性あり。**

1. 認定プログラムの構成

(1)基準を満たしたものを、**全て認定**する。

①ひょうごフィールドパビリオンの展開趣旨にふさわしいか

ア) 各地域に根差したストーリーや稀少性、独自性など

イ) 地域や社会の諸課題を解決し、未来志向型の成果を探求

ウ) 事業の継続性や地域の持続可能性

②プログラムのブラッシュアップや周辺他プログラムとの連携

③社会通念上、懸念があるか。

(2)基準を満たしたものを、**プレミアとして選定**

『各地域の風土・文化との親和性』や『事業の持続可能性』から地域の核となるもの

(3)未達の項目があるプログラム

『今後、より地域を豊かにする可能性』が高いと期待できるもの

2. 認定外・対話を継続して再チャレンジ可能

第十次認定のプログラム概要（事務局案）

□第十次認定対象プログラム：

令和7年4月14日～令和7年11月までに応募のあったプログラムの**5件が対象**

【第十次認定プログラム】

認定：3件（合計270件）

※既認定プログラムのうち、1プログラムが辞退。

認定を見送る：2件

地域別件数

地域	件数(合計)
摂津	-(69)
播磨	3(101)
但馬	-1(43)
丹波	-(27)
淡路	-(30)

分野別件数

分野	件数(合計)
震災復興	-(7)
自然・環境	-1(65)
農林水産	-(41)
食	-(25)
経済・地場産業	-(59)
文化・芸術	3(73)

- 地域に根ざしたストーリー等がない

(1)認定プログラム(抜粋)

酒樽胴太鼓を響かせ、日本文化や酒米の王様「山田錦」を感じる（三木市）

【発信できるテーマ性】

- 三木市は、日本一の酒米「山田錦」の生産地として知られている。その「山田錦」を使用して造られた日本酒の製造過程で実際に使われた酒樽を再活用し、誕生したのが「酒樽胴太鼓」です。制作には、三木市の特産品である高品質な匏を用いている。
- この太鼓で奏でるのは、播州三大祭りの一つ「三木秋祭り」で響き渡る伝統的なリズム。参加者は、地域の祭り文化を象徴するこのリズムを実際に演奏する体験ができる。
- 本プログラムは、酒樽の再利用による太鼓づくりから、伝統的な祭りの音を奏でる演奏体験まで、三木の歴史・文化・職人技に触れることができ、地域の魅力を味わえる貴重な機会な体験となっている。

概要：三木市特産の酒米「山田錦」で造られた日本酒を実際に仕込んだ酒樽を再利用して作られた「酒樽胴太鼓」の演奏を鑑賞及び体験。

実施主体： @Don !!



▲酒桶胴大太鼓



▲酒樽胴太鼓



▲酒樽胴太鼓を模したワークショップ用作品

山伏の寺伽耶院で歴史ある伝統を知る（三木市）

【発信できるテーマ性】

- 約1,300年の歴史を誇る**修験道の聖地・伽耶院**は、山岳信仰と仏教が融合した修験道の中心として発展してきた。その**厳かな環境で行われる山伏の修行**は、自然と共生し、祈りを捧げることで心身を鍛え、**日本古来の精神文化を今に伝える象徴**である。
- ほら貝吹きや護摩行、写経といった象徴的な修行を簡易に体験することで、参加者は修験道の歴史や精神文化を体感し、その背景にある自然との共生や祈りの意味を理解し、**地域文化の価値を再認識**できる。
- このプログラムでは、ほら貝吹きや護摩行、写経など、**山伏の修行を簡易に体験**しながら、その意味や歴史を学ぶことができる。

概要：住職による国指定重要文化財の紹介をはじめ、ほら貝吹きなどの山伏体験をはじめ護摩行や写経体験を四季を感じながら体験できるツアー。

実施主体：伽耶院



▲伽耶院入口



▲護摩行実施場所



▲体験で使用するほら貝

第十次認定プログラム（事務局案）

一覧：3件

プログラムの名称	実施主体	地域
< 播磨 >		
1 山伏の寺伽耶院で歴史ある伝統を知る	伽耶院	三木市
2 藍染発祥の地！三木市であなただけの染物体験を	竹岱亭	三木市
3 酒樽胴太鼓を響かせ、日本文化や酒米の王様「山田錦」感じる	@Don !!	三木市

前回企画委員会（検証委員会）を踏まえた検証作業

■前回委員会での主な意見

区分	主な意見
<u>全体</u>	<ul style="list-style-type: none">・ <u>成功要因と改善点の分析</u>が必要・ アンケート等で得られた<u>現場の声を分析し、県政に反映</u>していくべき・ 県民の<u>今後に活かせるような検証</u>内容とすべき・ 地域資源の磨き上げ、シビックプライドの醸成、県民意識の変容など、評価を分けるべき・ 万博での成功の視点と<u>兵庫の発展につながったかの視点</u>を取り入れること・ 評価方法は、主体によって様々なので、<u>ターゲットごとに丁寧に分析</u>すること
<u>フィールドパビリオン</u>	<ul style="list-style-type: none">・ FPプレーヤーがそれぞれの活動を通じて<u>SDGs達成に向けてどのような意識変容があったか</u>を確認すること・ FPの今後のあり方について、<u>行政関係者にもヒアリング</u>をするべき・ FP<u>認定プログラムの改善状況</u>を分析すること・ <u>観光としての誘客と交流としての来訪に分けて分析</u>するべき・ FPの<u>価値はどこにあったのか</u>を来訪者アンケート結果等により分析すること・ 上手く<u>誘客できた好事例を整理</u>し、他のプレーヤーが真似しやすいように事例紹介すべき・ 事業の方向性を示した上で、<u>プレーヤー目線の活動支援が重要</u>・ 各プレーヤーの<u>万博の熱を冷まさないような展開</u>とすること

■上記意見のポイント

Point①： プレーヤーや関係者からの意見を集め、県政や兵庫の発展に活かすこと

Point②： フィールドパビリオンの価値を分析し、プレーヤー目線で活動を支援すること

Point③： フィールドパビリオンの取組を、観光と交流の視点で評価すること

前回企画委員会（検証委員会）を踏まえた検証作業

■ 検証の視点

区分	主な視点
<u>全体</u>	<ul style="list-style-type: none">・兵庫の魅力を広く発信できたか・観るだけでなく参加する万博となったか・推進協議会の構成員数は趣旨に沿ったものであったか・交流人口の増加やシビックプライドの醸成などに寄与したか
<u>フィールドパビリオン</u>	<ul style="list-style-type: none">・プログラムの掘り起こしは十分であったか・プログラムは十分に魅力的な内容となっているか・万博会場での発信は現地に来てもらえるような取組であったか・ひょうごの魅力を伝えられるプロモーションが展開できたか・新観光戦略と整合がとれているか
<u>関西パビリオン</u> <u>「兵庫県ゾーン」</u> <u>「多目的エリア」</u>	<ul style="list-style-type: none">・メインショー、実物展示などによりフィールドパビリオンの趣旨が伝わったか・ゲートウェイとして、本県への誘客につながったか・来場者の満足度が高かった要因は何か・展示やイベントでのつながりを継続させるためにどのような工夫が必要か
<u>ひょうご EXPO TERMINAL</u>	<ul style="list-style-type: none">・ハンズオン展示などによりフィールドパビリオンの趣旨が伝わったか・子どもを含めた家族を対象にしたターゲットの設定は適切だったか・来場者数の目標、実績は妥当だったか
<u>ひょうご 楽市楽座</u>	<ul style="list-style-type: none">・ターゲット設定は適切であったか・県内各地域から企画プロデューサー、地域アドバイザー等を選任した組織体制は機能したか・県内各地域への訪問に繋がるイベントであったか

区分	主な視点
<u>ひょうご EXPOweek</u>	<ul style="list-style-type: none">・各テーマで参加者が万博（SDGs等）を感じることができたか・博覧会協会のテーマウィークと連動した事業展開となった・企業、大学など外部への広がりがあったか・申請、認定にかかる仕組み、件数は妥当であったか・認定イベントを今後につなげるためにはどのような工夫が必要か
<u>ひょうご EXPO41</u>	<ul style="list-style-type: none">・県内市町のPRができたか・県内市町への誘客につながったか・住民のシビックプライドが醸成されたか・新たな市町の取組につなげるにはどのような工夫が必要か
<u>ひょうご EXPO DREAM BUILDERS</u>	<ul style="list-style-type: none">・子どもが万博に参加する事業展開は妥当であったか・子どものシビックプライドが醸成されたか・子どもの参加者数は妥当であったか・フィールドパビリオンへの訪問につながったか・今後、取組を継続するためにどのような工夫が必要か
<u>子ども招待プロジェクト</u>	<ul style="list-style-type: none">・子どもたちにとって自分や地域の未来を考えるきっかけとなったか・訪問学校数や生徒数は妥当であったか・フィールドパビリオンへの訪問にもつながったか・事前事後学習により子どもの学びにつながったか

前回企画委員会（検証委員会）を踏まえた検証作業

■検証報告書の全体像

<事業別検証>

- 1 事業概要
- 2 実施結果
来場者数などの実績のほか、アンケートや関係者ヒアリング結果を反映
- 3 成果と課題
アンケート結果等を踏まえた客観的な評価
- 4 今後の県政に向けて
成果や課題から導かれた教訓を提言として整理

<全体検証>

- 1 KPI検証
- 2 経済波及効果分析
- 3 推進体制の評価
アンケート結果等を踏まえた客観的な評価
- 4 今後の県政に向けて
成果や課題から導かれた教訓を提言として整理

■報告書公表までのスケジュール

- 前回委員会では検証にあたっての視点について議論
- 今回委員会（12/23）では事業別検証、全体検証における評価（成果と課題）について議論
- 次回委員会（1/27）で報告書骨子の公開、2月上旬のR8当初予算の発表前に資料配布

11月	12月	1月	2月	3月
<企画委員会> ・取組の検証① ※検証の視点	<企画委員会> ・取組の検証② ※成果と課題	<企画委員会> ・検証報告書骨子の公開	検証報告書の公表 （2月上旬予定）	全県推進協議会を開催（3/19(木)）